

細菌やウイルスの除去にも威力

ナノバブル水を「存じ」どうか。特殊技術で超微細な気泡を長期安定化（何か月も消えない状態に）させた水のこと。細胞レベルのごく小さなものにまで浸透・作用する性質が注目され、医療など幅広い分野で利用する動きが広がっている。その開発・製造に取り組みREO研究所（宮城県東松島市、千葉幸夫社長）が今春、魚介類用の浄化システムを商品化。細菌類はもちろん、ウイルス類の除去にまで威力を発揮する画期的なシステムで、同社では「まずは、ノロウイルスに苦しむカキ業界に売り込みたい」と意気込んでいる。

ナノバブル水とマイクロバブル併用

最大の特徴であるナノバブル水はオゾンと海水が反応した色。水の蔵に使え、生成した独自の、千葉中に無数のオゾンの気泡が跳ね上がる。社長によると、マイクロバブルが存在している証拠と、ね上がった力を加えて壊す。非常に強い浄化能力、システムで約8時間運転した場合は、使用量は1辺程度に抑えられる。「表面に付着した有機物や細菌類をマイクロバブルで、その取り残しとウイルス類をナノバブル水で取り除く」と千葉社長。

オゾンと泡の力で安全かつ万全な浄化

「浄化後にヒト由来で付着する危険性がある。ノロウイルスのリスクゼロとはいえないが、システムは折り返し紙付き。先行導入した地元のカキ事業者は、事故やクレームが1件も発生していない。素材自体も不純物が除去されて元気になるので、ピュアな風味を染しめるようになる。安全性確保と差別化に向け、ぜひ利用してほしい」としている。



本社施設で試験浄化される殻付きカキ



オゾンと海水で生成したナノバブル水

システム 魚介類用の浄化

宮城・東松島市のREO研究所

目され、利用事例は拡大し、対応している。何でも処理できるが、カ「わずか1ccの中に億単位のオゾンの気泡が存在する時間は約8時間」という。おなみに色は透明ではなく、鮮やかなピンク。ナノバブル水を無尽蔵に使えば、コストが跳ね上がるため、今回のシステムではマイクロバブルを併用。一回の浄化作業で約8時間運転した場合は、使用量は1辺程度に抑えられる。「表面に付着した有機物や細菌類をマイクロバブルで、その取り残しとウイルス類をナノバブル水で取り除く」と千葉社長。

「浄化後にヒト由来で付着する危険性がある。ノロウイルスのリスクゼロとはいえないが、システムは折り返し紙付き。先行導入した地元のカキ事業者は、事故やクレームが1件も発生していない。素材自体も不純物が除去されて元気になるので、ピュアな風味を染しめるようになる。安全性確保と差別化に向け、ぜひ利用してほしい」としている。

システムは制御装置もセットで、導入次第、すぐ使用できる。販売価格550万円前後。リ

03-25500